

ハザードマップ

ハザードマップ

大雨や地震などの自然災害は、いつ起こるか分かりません。自然災害から身を守るために役立つのが、ハザードマップです。

ハザードマップは、災害が起きたときに、どこでどのような被害が出るおそれがあるかを、地図に表したものです。たとえば、洪水のハザードマップでは、大雨で川があふれたときに、水につかるおそれのある場所や、その深さが、色分けして示されています。また、避難場所の位置も、のっています。

ハザードマップには、地図の記号や色の意味を説明した「凡例」がついています。地図を見るときは、まず、凡例を確かめましょう。

ハザードマップは、市や町が作っていて、役所でもらったり、インターネットで見たりすることができます。国も、全国のハザードマップを見ることができるサイトを用意しています。

大切なのは、災害が起きる前に、自分の家や学校の周りがどうなっているかを確かめておくことです。①そうしておけば、いざというときに、どこへ、どの道を通ってにげればよいかが分かり、あわてずに行動することができます。

1 ハザードマップとは、どんな地図ですか。

2 洪水のハザードマップに示されていないものはどれですか。

- ア 水につかるおそれのある場所
イ 避難場所の位置
ウ その日の天気

3 ハザードマップは、だれが作っていますか。

4 ①「そうしておけば」の「そう」とは、どうしておくことですか。
